

第35回スポーツリレートーク

「ゼビオアリーナの今、そして未来 ～ 高松から仙台につながる想い ～」

講師 ゼビオアリーナ仙台 館長 並木 浩司 氏

2015年4月14日（火） 19時 ～ 20時半

仙台市青葉中央市民センター 第2会議室

参加者 30名 会員21名 一般9名（仙台市2名）、ベルフィーユ・仙台大学他



おぼんです。皆様にはいつもアリーナをきれいにいただきありがとうございます。
私の経歴は少し変わっていて、参考になるかどうかわかりませんが最期までぜひお付き合い
ください。

【自己紹介】

私は1971年9月5日の生まれで東京都田無市出身です。小さい時からアイスホッケーをはじめ、橋本聖子さんや田中将弘選手で有名になった駒澤大学附属苫小牧高等学校でアイスホッケーを体験し、東洋大学に進学して競技を続けました。その後東京でサラリーマンを経験しましたが、どうしてもアイスホッケーを続けたくて、縁があって香川県から国体の代表選手として活動しました。勤務先の関係で愛媛県の松山市、仙台市、福島市、郡山市と転勤していましたが、2005年に誕生したばかりのプロバスケットのbjリーグ高松ファイブアローズの広報担当としていろいろな仕事をしました。2006年の参戦から二年間はすべてのアウェーに帯同しました。2009年からはゼビオ株式会社に移りアイスホッケーの東北フリーブレイズの立ち上げに参加、着ぐるみを着たり本当にいろんなことをやりました。

そして2012年8月からゼビオアリーナの立ち上げに参加し現在に至ります。

【当時のbjリーグ】

ここからはbjリーグのお話しをしたいと思います。2005-06シーズンは6チームでスタートし、2006-07年に高松・富山が増えて8チームになり、初めてのオー

ルスターゲームが沖縄で開催されました。本来はリーグが主体の運営なのですが、経験が乏しいため現実には各地のチームスタッフで盛り上げた思いがあります。考えてみれば最初のオールスターに関わり、来年bjリーグ最期のオールスターゲームに関わることになったのも何かの縁だと思います。

当時のリーグは情報共有がしやすく、チーム間で助け合うことも多く、先輩格の仙台89ERSの広報の川村さんには随分教えていただいた事を今も本当に感謝しています。高松から見た仙台89ERSは、アットホームな雰囲気があり運営スタッフ、選手、ブースターに暖かく迎えていただきました。アウェーチームとしてきて圧巻のジンギスカンダンスではアウェーを感じ、雰囲気にのまれることもありました。学んだものも多く、ブースターの方々に喜んでもらうサービスとして実施していた最終戦での集合写真も真似をしました。また、あまり知られていませんが89ERSは日本人選手と外国人選手がとてもコミュニケーションがとれていて、いい関係ができていました。その関係作りのひとつとして外国人選手が到着すると89ERSではチームのみんなで迎えに行っていました。不安を抱えてくる選手や家族はこれで一気にチームを好きになるのです。私はこれもチームの結束力を高める為アイスホッケーで真似て選手や家族に喜んでもらえました。

【高松ファイブアローズが行ったもの】

高松ファイブアローズでは何事にも理由をつけて取組ました。会場に早くきてもらうために先着制でチアスティックを配りそのことで試合前のイベントの価値を向上させました。ゲームスポンサーに始球式をやることにしていましたが、全てのゲームにスポンサーがつかないため、スポンサーがない場合は先頭のこどもブースター会員を指定して始球式をやりました。カップラーメン配布のためには、ブースターVSスタッフの三輪車競争をして、勝ったブースター全員にラーメンをプレゼントしました。すべては早く会場に来ていただき試合前のイベントの価値を高める事、会場の盛り上げのためでした。公式球のプレゼントでブースターMVPを選び、会場でもりあげたブースターを表彰をしたりして、アリーナDJ主導ではなく、ブースター主導の応援をめざしました。

アウェーではロッカールームをきれいにして帰ることを徹底しました。高松は合併により約42万人の地域だったのですが、そこには現在の仙台ベルフィーユの前身である「四国Eighty 8 Queen」というバレーボールチームと、野球の独立リーグの「香川オーリーブガイナズ」、サッカーの「カマタマーレ讃岐」、アイスホッケーの「香川アイスフェローズ」、「高松ファイブアローズ」と5つのプロチームがあり、2007年にそのチームが集まり香川プロスポーツクラブ連絡協議会を作りました。小さいマーケットで観客を取り合うのではなく、各チーム同士の連携を月1回は話しあい、いいものを共有しようと考えていました。これは今も続いていて、スポーツ教室や互いのゲーム会場での情報発信、共同でのアンテナショップの運営などを行っています。私はその経験があったため、昨

年バスケットとバレーボールの同日開催を仙台でやったのです。

【ゼビオアリーナがめざすもの】

■ ゼビオアリーナHPより抜粋

「子供たちにとっての希望やあこがれ、夢となるアリーナスポーツの聖地をめざします」



ゼビオアリーナは3名で実質運営しています。私の仕事としては、イベント予約の受け付け、イベントの打ち合わせのほか、イベント開催時の安全管理も大切ですし、また、視察の対応も

大きくなっています。実際の視察は行政、建設会社や設計会社、他のスポーツチームなどがあり。視察の理由としては既存体育館の老朽化、地域活性化の施設の建設のため、そして、東京オリンピック関係施設建設のためなどがあるようです。では、何故ゼビオアリーナ仙台にくるのかということ、時代のニーズにあった施設であることや、エンターテイメントにも対応できる施設を検討しているというのが大半の理由となっています。

一例をあげれば一般的に体育館は文字通りからだをそだてる体育のための施設であり、プロスポーツのイベント運営を想定し作られていないため、イベントの際には仮設のスピーカーなどを必要とします。そうした施設の作ったときの目的と現状のニーズがあわない体育施設のギャップを埋めるため作ったのがゼビオアリーナであり、スピーカーはBOSEで全ての席にきこえる工夫をしています。また、ゼビオアリーナの売りのひとつはビジョンで、アリーナでは日本有数の設備となっています。他にも「見やすく席のグレードに合わせた一階席」「大人数対応のトイレ」「ウォッシュレットトイレの採用」「女性トイレへのパウダールームの設置」「授乳室」「上履き不要」「11tトラックが利用できる搬入口」など、さまざまな設備の導入や、運営の取り組みをしています。それはすべて、来ていただくお客様全てによるこんでもらいたいからであり、その為には子供連れでもストレスなく楽しめることが大事だと考えているからです。結果的にいえば、ゼビオアリーナは体育館ではなくアリーナですから、視察が多いということは視察する方々が体育館ではなく、アリーナを検討しているからだだと思います。これからは、沢山の施設を作れないため、マルチに対応できる施設を検討し、設備の充実をはかりたいということもあると思います。一方で海外にはたくさんのアリーナがあり、なぜそのアリーナに視察にいかないのか。と聞くと日本にないものは現実的ではないといいます。(笑)

視察は出来る限り時間を合わせてうけ、まねをされてもいいし結果として全国にたくさんのアリーナができればいいと思っています。

最期にスポーツボランティアの皆さんに御願ひがあります。私たちはすべてのお客様に楽しんでほしいと思っています。初めてアリーナに来ていただいた方、いつも来ていただい

ている方、そして、ボランティアのみなさんにも楽しんでほしいのです。(海外の踊るボランティアの映像紹介)

みなさんが楽しそうに一緒にジンギスカンダンスをして、アットホームな雰囲気ができたら、観客はきっとまた来たいと思うはずです。そうした雰囲気をアテンドするものボランティアのみなさんだと思います。ぜひ、ゼビオアリーナでお会いしましょう。本日はありがとうございました。



文責 泉田

資料

講師経歴

プロフィール

東京都出身 43歳 幼少の頃からアイスホッケーをはじめ、大学卒業までアイスホッケー部にて活動。駒澤大学附属苫小牧高等学校・東洋大学出身。

東京でのサラリーマン生活を経て、香川県に移住しアイスホッケー香川県代表として国体出場。その後、在籍していた穴吹工務店がスポンサーする「高松ファイブアローズ」の広報を新規参入前年度より4年間担当。ゼビオ株式会社に入社後販売促進業務を行いながら2009-2010シーズンからアジアリーグアイスホッケーに新規参入した「東北フリーブレイズ」の運営業務を担当。2012年8月よりゼビオアリーナ仙台にて現業務に従事。